

# 「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道旭川工業高等学校（定時制）
【活動の名称】 食の感謝祭
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全校生徒 6月


（項目イー観点②絆づくり）

## 【活動の概要】

- ・生徒全員が協力しながら野外炊事を実施する。

## 【ねらい】

- ・仲間や教職員と語り、親睦を深める。
- ・生きるために他の動植物の命を「いただいている」ことに気付かせる。

## 【活動の流れ】

### 【前日までの事前活動】

- ①生徒会で計画・立案（生徒総会で承認）する。
- ②生徒会でセレモニーの内容等を検討する。
- ③各クラスで係分担（買い出し・火起こしなど）を決める。
- ④各クラスで予算に合わせ買い出しする材料等を話し合う。
- ⑤各クラスでセレモニー（イベント（ゲーム））出場者を決める。



楽しい炊事のひととき。  
会話も弾みます。

### 【当日の活動】

- ①それぞれの生徒が係分担ごとに準備をする。
  - ・炊事に使った炭を埋めるための穴掘り、コンロ等の設置、火起こし、買い出しをする。
  - ・生徒会役員はセレモニーの準備をする。

- ②炊事をする。

- ③セレモニーを行う。

- ・学校長挨拶
- ・生徒会長挨拶
- ・軽音楽部の野外ライブ
- ・イベント（ゲーム）

※ 当日はPTAによるアイスクリームの提供も行われた。



平成27年度のイベントは、クラス対抗のえびせん早食い競争でした。

軽音楽部の野外ライブで、会場も盛り上がりました。

- ④全員で後片付けと清掃を行う。

### 《生徒の声》

- ・焼き肉がとてもおいしかったのは、皆で協力して準備したせいもあると思う。
- ・火起こしが思いのほか難しかったけど、協力し合い火が起きたときはうれしかった。
- ・ただ楽しいだけでなく、感謝とは何かを深く考えることが色々あった感謝祭だった。

準備から、後片付けまで、皆で協力して頑張りました。



## 【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・生徒全員が協力して準備することで互いの信頼関係を深めることができた。
- ・予算やクラスメートの希望に応じた買い出しや、火起こしなど、適度に困難な体験をすることで互いに協力し合える人間関係を築くことができた。
- ・皆で炉を囲んで食事をすることで生徒間や教職員との親睦をより深めることができた。
- ・生徒が毎年楽しみにしている行事であり、生徒会が計画・立案して進めることで、生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚が深まった。

- 生徒一人一人に役割をもたせたことにより、全ての生徒が主体になって取り組める活動になっています。
- 生徒一人一人が自らを旭川工業高校定時制の生徒会の一員であることが自覚でき、生徒が様々な場面で積極的に意見を出すことができています。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道幌加内高等学校
【活動の名称】 アンテナショップの実施
【活用した資源】 拓殖大学北海道短期大学、旭川大学・旭川大学短期大学部、 札幌ベルエポック専門学校、旭川調理師専門学校
【対象学年と活動の時期】 全学年 年4回（6月、9月、11月、12月）


（項目ウー観点①居場所づくり）

【活動の概要】  
・通常・土曜授業（高大連携）で得た知識等を基に、生徒が主体的にアンテナショップを企画・経営し、地域の方へそばや農産加工品を販売する活動を通してソーシャルスキルを身に付ける。

【ねらい】  
・同世代や異世代との交流を通してコミュニケーションスキルを身に付け、いじめの未然防止を図る。  
・学校内の学習に加えて高大連携（外部教育力）で学習した知識を基に、本校のアンテナショップを生徒主体で企画・経営する。こうした活動を通して、生徒同士の協力や来店するお客様への対応を通して自己有用感を育み、自己理解を深めるとともに多様性を理解させる。【主体性と協働性】

【活動の流れ】  
＜土曜授業＞

4/18(土)	<ココロ>と<カラダ>をつなぐワークショップ	拓殖大学北海道短期大学	保坂助教
5/ 2(土)	地域活性のベンチャービジネス～成功の秘訣～	旭川大学経済学部	江口教授
	感染防止と手洗い～手洗いの基礎知識～	旭川大学短期大学部	並川准教授
6/27(土)	第1回 アンテナショップ		
7/ 3(金)	サービス接遇・おもてなしマナー講座	札幌ベルエポック調理製菓専門学校	
8/29(土) 30(日)	幌加内町新そば祭り		
9/26(土)	第2回 アンテナショップ		
11/17(火)	地産地消～ 行者ニンニクペペロンチーノ	旭川大学短期大学部	和島准教授
	味覚は目で味わう～におい・色・食感も加えて		豊島教授
11/21(土)	第3回 アンテナショップ		
12/19(土)	第4回 アンテナショップ		
2/20(土)	アンテナショップ経営総括	旭川大学経済学部	江口教授
3/19(土)	調理技術	旭川調理師専門学校	

## ＜活動体制＞

- 年4回、学年を縦割りにして、全校生徒を次のア～ウの3部門にチーム編成する。アンケート等の外部評価を活用してアンテナショップの質の向上を図る課題解決型学習を行う。
  - ア そば提供部門 ～ 来客者に生そばを提供するそば店を運営する。
  - イ 物販部門 ～ 農場で収穫した生産物やその加工品を販売する。
  - ウ 催事部門 ～ 日ごろの学習の成果を発表する企画・運営する。  
(ガーデニング講習会・絵本の読み聞かせ・科学実験教室)
- ショップ経営を通して、「衛生管理」、「季節のメニュー作り」、「心に届く接客」、「空間演出」、「トラブルの対処」、「広報」等、農業の6次産業を多面的に学び、21世紀型スキル（思考の方法・仕事の方法・仕事のツール・社会生活）を育成する。



## 【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・通常授業や土曜授業で、集中して学習に取り組む姿勢が見られた。
- ・来客数の増加と接遇の反応、販売物が完売したことなどから、達成感が得られたとともに、自己有用感が育まれた。

- 学校の伝統を守ろうとする上級生の姿が下級生の励みとなり、また、そのことから、下級生の自律心を育てることができています。
- 学校のよさについて学ぶ学習を通して、自分たちの頑張りやよさ、地域からの信頼の厚さに気付くことにより、自己有用感を高めることができています。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道遠別農業高等学校
【活動の名称】 農業体験を通じた幼児センター等との交流会等の実施 ・小学生とのトウモロコシ定植、枝豆収穫、田植え、収穫体験、餅つき ・幼児センター「きらり」の幼児との花壇造成 ・アンテナショップ「遠農高マルシェ」、町内イベントにおける出張マルシェでの販売活動、花いっぱい運動
【活用した資源】幼児センター「きらり」、遠別小学校
【対象学年と活動の時期】全学年 5月～12月


（項目ア—観点②絆づくり）

【活動の概要】  
・幼稚園児や小学生、地域の方々との望ましいコミュニケーションの在り方を学習し、交流を図る。

【ねらい】  
・地域の人々との交流を通して、集団における自己の役割を確認するとともに、自己有用感を育む。  
・望ましい人間関係を構築するために、コミュニケーションスキルを身に付ける。  
・相互に協力して活動に取り組もうとする、主体的・協働的な姿勢・態度を育成する。

【活動の流れ】  
① 交流・連携活動に係る事前指導を受けた後、幼稚園児や小学生等に対して、技術的なアドバイスや商品説明等ができるよう計画・準備を進める。  
② 計画に基づいて、交流・連携活動を行う。  
③ 交流・連携活動の実施後、事後指導を受け、学年及び専攻班ごとに反省会を行う。  
④ 各交流・連携活動に係る反省や課題点については、次回の交流・連携活動に生かすようにする。

田植えの楽しさや大切さが伝わるように手本を見せるなど、伝え方を工夫して頑張りました。



＜田植え体験を通じた遠別小学校との交流＞

分かりやすい説明を工夫することで、小学生が枝豆の採取を上手にできるようになりました。



＜枝豆収穫体験を通じた遠別小学校との交流＞

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】  
・生徒が幼稚園児や小学生と触れ合うことで、年少者に対し優しく接する態度や自己有用感を育むことができ、その後の学校生活においても、仲間同士で思いやりの心をもって接することができるようになった。  
・「遠農高マルシェ」販売会では商品説明を求められたり、クレームに対応したりするなど適切な対応に努めることで、課題解決能力や積極性の向上が図られ、その後の学校生活において、生徒が主体的に活動する場面が増えた。  
・3年生にとっては知識・技術の定着と自信につながり、リーダー性や指導力を身に付けるとともに、責任感を養うことができた。  
・1・2年生にとっては、学習活動における学び合いが活発になるなど、相互交流を通じたコミュニケーションスキルの向上が感じられる場面が見られた。

- 地域の子どもなどとの交流を通して、自分が頼られていることを理解し、自己有用感を育むことができています。
- 身に付けたコミュニケーションスキルを活用できたことにより、生徒が互いに協力して活動に取り組もうとする自主的・自律的な姿勢・態度を育成することができています。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道枝幸高等学校
【活動の名称】 宿泊研修・見学旅行に関わる取組
【活用した資源】北海道青少年体験活動支援施設ネイパル深川
【対象学年と活動の時期】1年生 4月29日～5月1日


（項目ア—観点②絆づくり）

## 【活動の概要】

- ・4月に実施することで、固定化された人間関係の再構築を行い、人間関係を円滑にする。

## 【ねらい】

- ・研修を通して、自主性を高めるとともに、相互の親睦関係を深める。
- ・集団生活における責任・規律・協調性を学ぶ。

## 【活動の流れ】

- ①進路講話を軸に4月のオリエンテーションの総括を行う。話の聞き方について、その場でも指導をする。
- ②しおりにメモをとらせ、1日の振り返りの時間に、全体の場でシェアリングを行う。

- ①学ぶ意味や将来について考えるきっかけを提供する。
- ②教員が巡回し、発表者を指名することを事前に生徒に伝えておく。

- ③ネイパル深川の職員が講師となり、固定化された人間関係の再構築をテーマにピア・サポート活動を実施する。
- ④各体験型の研修（七宝焼き・五色綱引き・長縄跳び）においても、親睦・交流を図る。

- ③事前に講師の方に重点指導項目を提示した。「新たな仲間との交流」という内容で、自己紹介、動物ヒントリレー、私の学校など、グループ単位での活動を行った。
- ④綱引きや長縄において、作戦や戦術を考えさせる時間を設定する。

- ⑤宿泊研修の事後指導として、しよりのメモや1日の振り返りなどを手帳にまとめさせ、宿泊研修の感想をテーマごとに記入させる。

- ⑥提出された手帳を担当がチェックし、コメントを書く。

### 生徒の感想（一部抜粋）

- ・進路のことや、学習方法を学びました。特に一番の発見は、クラスの団結力や長縄など相手を気遣った声掛けの大切さです。
- ・三日間で個人的にクラスやみんなのこと、クラスの雰囲気がよく分かったので、学校祭や球技大会などに生かしていきたいです。
- ・行事だけではなく、普段の生活で休み時間など、楽しく過ごしたいなと思います。

### 担任のコメント（一部抜粋）

クラスの皆が同じではないということは、もちろん頭では分かっているとは思いますが、つい意識しなくなってしまうがちですね。そのことに気付けたのがよいですね。



〈ピア・サポート活動〉



〈体験型の研修（五色綱引き）〉



〈（左）しおり （右）手帳〉

## 【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・生徒間の交流が活発になり、固定化された人間関係の再構築ができた。
- ・宿泊研修を通じ、学年・ホームルームへの所属意識が高まった。
- ・話の聞き方が改善され、話し合い活動がスムーズに進むようになった。
- ・手帳を通じて、生徒の考えや様子を知ることができた。

- 外部講師によるプログラムを効果的に活用したり、体験活動に言語活動を位置付け自分の気持ちを表現させたりしたことにより、学年としての望ましい方向付けができています。
- 宿泊研修における様々な集団活動を通じて生徒間の親睦が深まったことにより、望ましい人間関係を築くことができています。

